

【 飼料の利用と流通 】

1 開催期日 令和8年12月1日（火）～12月4日（金） 4日間

2 講義日程

月日	時間	講義名及び講師の所属氏名
12月1日 （火）	13:10 ～13:30	開講式
	13:30 ～14:30	濃厚飼料をめぐる現状と課題 畜産局 飼料課 流通飼料対策室 需給対策第1班 係長 杉山 裕紀
	14:45 ～16:15	飼料の安全確保について 消費・安全局 畜水産安全管理課 飼料検査指導班 課長補佐 黒崎 和美
	16:30 ～17:30	エコフィードをめぐる現状と課題 畜産局 飼料課 飼料利用調整班 専門官 柴田 由希子
12月2日 （水）	8:45 ～11:45	飼料給与及び飼料の栄養 東京農業大学 農学部 動物科学科 准教授 林田 まき
	12:45 ～14:15	給与飼料と家畜への影響 農研機構 畜産研究部門 研究推進部 研究推進室 永西 修
	14:30 ～17:00	飼料化技術 ―食品残さ、副産物の飼料利用を中心に― 日本大学 生物資源科学部 一般教養 生物学研究室 教授 佐伯 真魚
12月3日 （木）	8:45 ～10:15	高付加価値畜産物の生産と飼料（豚肉） 前 独立行政法人家畜改良センター理事長 入江 正和
	10:30 ～12:00	高付加価値畜産物の生産と飼料（養鶏） フィード・ワン株式会社 研究所 畜産研究室 養鶏課 係長 高井香鶴子
	13:00 ～14:00	高付加価値畜産物の生産と飼料（牛肉） 農研機構 畜産研究部門 牛精密管理研究領域 牛栄養代謝グループ 上級研究員 神谷 充
	14:15 ～16:45	飼料設計の基本について 国立大学法人山形大学 農学部 食料生命環境学科 准教授 松山 裕城
12月4日 （金）	8:45 ～10:15	食品残さ利用の養豚農場実践事例 有限会社ブライトピック千葉 取締役常務 石井 俊裕
	10:30 ～11:45	課題討論 「国産畜産物の高付加価値化、消費拡大に向けた国産飼料の役割について」
	12:45 ～14:15	農研機構 畜産研究部門 肉用家畜研究領域 豚飼養グループ 上級研究員 石田 藍子
	14:15 ～14:30	閉講式

事情により講師及び時間を変更する場合があります。

※講師所属について「農研機構」と記載あるものは「国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構」の通称です

3 開催場所（宿泊等の問合せ先）

独立行政法人 家畜改良センター 中央畜産研修施設

住 所 〒961-8511 福島県西白河郡西郷村大字小田倉字小田倉原 1

T E L 0 2 4 8 - 2 5 - 7 0 6 0

F A X 0 2 4 8 - 2 5 - 6 7 5 5

4 受講対象者の範囲

国、地方公共団体、畜産関係団体又は農協等生産者団体等の職員で当該分野に配属されて原則 5 年以内の者、農業に従事する者

5 受講者数 40 名程度

6 受講者の留意事項

- (1) 受講者は、宿泊等については研修開始 10 日前までに中央畜産研修施設へ直接申し込むこと。

なお、領収書の宛先は原則個人名宛てになっているが、変更を希望する方は、宿泊届提出の連絡事項にその旨書き込むようにすること。

また、事情により欠席することとなった場合は、速やかにその旨を研修施設に連絡すること。

- (2) 研修施設への入所は、研修初日の 9 時 00 分～12 時 00 分までに行うこと。

なお、家畜伝染病予防のため、研修施設に入所する当日は、極力、畜産関連施設等への訪問は避けること。

- (3) 受講者は、共済組合員証（健康保険証）、筆記用具、寝間着等を持参すること。

- (4) 受講生は、課題討論※（12 月 4 日（金）実施）に関して、グループ討論の際の発言用資料（A4 版タテ 1 枚程度）の作成等事前準備をしておくこと。

具体的には、受講者決定通知時に別途連絡する。

※課題討論について

（目的）設定課題について、現状や課題の整理及び多面的な対応策の検討を行い、課題解決に向けて論理構築等を訓練・学習することをねらいとして実施します。

（実施方法）受講生はグループに分かれ、事前提出資料等に基づいて各グループで討論し（グループ内討論において各自作成資料の発表の場合あり）、その後、全体で各グループの発表を行い、受講者及び助言者と意見交換を行います。

（その他）各受講生の事前提出資料及び各グループ発表資料は、受講者全員に配布します。

本研修に関する問合せ先

農林水産省畜産局総務課調整班 宮本

TEL 03-6744-0568（ダイヤルイン）